

### 3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

#### ☆他の観点との関係は？

本文下線部にもあるように、他の観点との関連性が強い内容です。ですから、例えばノートにおける特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して

「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではありません。

そのため、単元末や学年末に他の2観点と極端なばらつきが出た場合においては、評価方法や授業内容を一度見直すなどの指導改善を図る必要があります。

#### ☆いつ評価する？

「主体的に学習に取り組む態度」は、生徒の学習への継続的な取組を通して現れる性質を有することから、単元（題材）の最後に振り返りの場面を設定するだけでは不十分です。

右ページの事例にあるように、学習者が自分の学習状況を丁寧に見つめ直す振り返りができるよう、単元（題材）計画や教科の特性、学習スタイルに合わせて、授業者が適切な振り返りの場を設けましょう。

#### 何を評価する？

「主体的に学習に取り組む態度」の評価においては、単に継続的な行動や積極的な発言等を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりするために、**自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという、意思的な側面**を評価することが重要です。

#### 「自らの学習を調整する」とは

生徒が知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行う中で、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な取組のことです。これには大きく二つの要素があります。

##### ①「学習の進め方」における調整

個人目標の設定 / 時間管理 / 取り組む順序の調整 / 協働者の有無  
調査対象・方法の選択 / 調査量の選択 / 表現の工夫 / 援助希求 等

##### ②「教科の見方・考え方」における調整

教科の見方・考え方を意識した試行錯誤

より意識していきたい要素は、②の「教科の見方・考え方」における調整です。各科目において、①の「学習の進め方」における調整のみでは、その科目の評価としては不十分になります。「教科の見方・考え方」における調整を生徒が十分に行っているように働きかけていきましょう。

#### 個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

##### 評価方法の工夫

自分の考えを記述することが困難であるなどの、配慮が必要な生徒がいる場合には、記述による評価を口頭による評価で代替することも考えられます。生徒の実態に応じて適切な評価方法を選択することが考えられます。

##### 時間の確保が大切

振り返りシートの記入は授業時間内に確保しましょう。後で提出させると、内容を忘れていたり、用紙を紛失したりすることがあります。

# 「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法例

具体的な評価方法としては、振り返りシートやレポート等における記述、授業中の発言、教員による行動観察を、材料の一つとして用いることなどが考えられます。その際、生徒の発達の段階や一人ひとりの個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要があります。

## 振り返りシートの例

図1は、自らの学習を調整する活動をメタ認知するための商業科の事例（「令和6年度高等学校教育課程研究会研究報告 第4集」より）です。この単元で意識してほしい取組例を示すことによって、よりよい調整ができるように働きかけています。



意識して取り組めたところに「○」をつけよう。

視点	商業科の見方・考え方	組織の一員という視点、役割に応じた「やりがい」という視点、ビジネスの展開	自由進度学習			インタビュー準備		
			1	2	3	4	5	6
学びのコントロール例	目標の設定	個人で設定、目標の選択（チャレンジ目標、標準目標、復習重視）						
	時間の管理	時間配分の計画、残り時間の管理						
	調べる対象の選択	教科書、ネット、先生からの情報、友達からの情報						
	調べる量の選択	単一の資料、複数の資料、特定の人の情報、複数人からの情報						
	取り組み方の選択	協働する人数・対象、取り組む順序、分担の有無						
	問いの創造	途中で思い浮かんだ疑問を書き留める、調べ学習を通して探究課題を作る						
	質の向上	他との比較（先生、友達）、自分とは違う意見や考えの反映、練習回数						
	表現の工夫	見やすさ、声の大きさ、表情、論理展開、まとめ方						
	状況に応じた対応	困ったときの打開策、残り時間に適したより良い目標の再設定						
評価	自己評価	目標への到達度、内容の理解度、分からない箇所の整理、次回への意識						

図1 「学びのあしあと」学びのコントロール例の記載

図2は、図1で意識して取り組んだことを基に、その時間の取組についてより丁寧に振り返りができる工夫をしています。

< 本時の振り返り：特に意識して取り組めたこと 次回、意識したいこと >

1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5

図2 「学びのあしあと」本時の振り返り

単元の終わりには、図3にあるように、「内容」、「自己調整」、「情意」について振り返りができる欄を設けています。振り返りシートにおいては、このように「教科の見方・考え方」や「学習の進め方」についての試行錯誤の様子や、自身の視座や価値、行動の変容、やりたいことの拡大などが見取れる工夫をしていきましょう。

< 単元おわりの振り返り：何がわかったり、できるようになったか 目標の到達に向けてどのように学びをコントロールしたか 今後どのようにしていきたいか >



図3 「学びのあしあと」単元おわりの振り返り